第 6 学年　国語科学習指導案

１．単元(題材)名

「自分の考えを明確にしながら読もう(イースター島にはなぜ森林がないのか)」

２．単元(題材)の目標

目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。

３．単元(題材)の評価規準

○イースター島について興味をもち，進んで感想や筆者の主張に対する自分の考えを出そうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)

◎事実と意見を区別して，イースター島の森林が無くなったことの意味と筆者の主張を読み取っている。
(読む能力)

４．単元(題材)と指導の構想

（１）単元(題材)と児童

①児童の実態

「説明文は苦手」と感じている児童が多い。理由は,「文章をまとめるのが難しい」「内容の意味がよく分からない」「内容に興味がもてない」などの理由が挙げられた。

②既習単元とのつながり

児童は昨年度，説明的文章「森林のおくりもの」の読み取りから,「意見と事実を区別して読むこと」と「内容を整理し，要旨をまとめる」学習を行っている。上記２つの学習から，児童は筆者が読者を説得するための工夫をして文章を書いていることに気付いたり，筆者の主張を探しながら文章で取り上げている内容の中心となる事項をまとめたりすることができた。

本単元でも，上記の力を一層向上し，筆者の考えの中心となる事柄を見付け，文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ，読み取ったことがまとめられるようにしたい。そのため「意見と事実を区別し，内容を整理して読み取る活動」,「筆者の意見が書かれている文章から，主張を読み取る活動」を設定する。しかし，それだけでは不十分であると考えた。２つの学習を発展させ，本単元の目標にある「自分の考えを明確にしながら読む」力を付けたい。そこで上記に加え「筆者の主張に対して，自分の考えをもち表現する活動」を設定する。

③教材観

本教材は，かつて豊かな森林のあったイースター島からなぜ森林が無くなってしまったのかが島の歴史をなぞるように書かれている。序論ではイースター島の紹介，本論では森林が無くなった原因，結論ではイースター島の歴史から教えられること（筆者の主張）が書いてある。序論と本論では，多くの事実が述べられ，本論では事実を受けて筆者がどのように考えているのかという意見が述べられている。そのため，

事実と意見を分けて読み，筆者の主張を探すことは比較的容易であるといえる。しかし，主張に表れている「子孫に思いをめぐらす」などの言葉は，児童にはなじみが少ない。そのため，言葉の意味を丁寧に確認しながら，児童なりに分かる言葉で言い換えさせる必要がある。

また本教材において，児童は森林がなくなった原因に目を向けると同時に，「モアイ像とはなぜつくられたのか」「なぜポリネシア人は島にやってきたのか」「どんな争いが起きていたのか」「モアイが倒れた写真は何を意味するのか」など，様々な疑問を持ちながら読み進めることができる。そして謎が徐々に解き明かされていく叙述に興味関心をもって読んでいくことができる。

（２）指導の構想

①単元を貫く言語活動

児童の興味関心を生かし，イースター島の謎を明らかにしながら文章を読み進めていけるように，本単元で貫く言語活動を「事実から謎を，意見からメッセージを受け取り，イースター島謎解きブックリーフレットをつくろう」とした。

この活動は児童がブックリーフレットをつくりながら教材文を読み進めていくものである。ブックリーフレットには，ア)「序論」「本論」「結論」の要点をまとめたもの，イ)読み取った事実から出てきた「謎(疑問)」とその答え，ウ)筆者の意見のまとめ(要旨)，エ)主張を受けての自分の考えを書かせる。

特にイ)では，本文だけでは解決できないものが出るだろう。そこで，イースター島に関する書籍を用意し，調べながら答え(謎の解明)ができるようにする。

②言語活動を進める上での展開の流れ

第１次(導入)では，イースター島は今まで解明されていなかった不思議があること伝えたり，実際の写真を見せたりしながら，児童が教材文に興味関心をもてるようにする。その後，通読後初発の感想を交流したり，本文中で疑問に思ったことを話し合ったりしながら，教材文に書かれている内容の概略に触れる。そして，これからの学習では教材文を整理し，事実と意見を区別しながら読み，イースター島の不思議を紐解くためにブックリーフレットづくりを行うことを知らせる。指導者は事前にモデルブックリーフレットを用意し，児童に例示し，書く内容項目とつくる手順を確認する。

第２次(展開)では，序論，本論，結論の順に本文を読み進めていく。序論では，イースター島はどのような島かブックリーフレットにまとめた上で，書かれている事実の中で疑問に思ったこと(＝謎)を見付けさせる。「絶海の孤島になぜ人がたどり着けたのか」など，本文に沿って興味関心を深める疑問を取り上げたい。また，出てきた疑問は事前に解説書を用意しておくことで，児童が調べられるようにしておく。調べた謎とその答えはブックリーフレットに記載する。本論では森林がなくなった原因についてまとめる。序論と同様に，児童は事実から謎を見付けたし，調べて分かったことをまとめる。結論では，森林がなくなった後のイースター島の様子についてまとめる。ここは事実と意見が混同されており，筆者の主張が述べられている文章である。前時同様事実をまとめたあと謎を探して調べた後，意見がどこに書かれているかを探り，筆者の主張を読み取らせた上で要旨をまとめさせる。そして，主張に対して自分の考えを書かせる。「子孫に思いをめぐらす文化とは具体的に何なのか」という観点から，本教材が教えてくれることを考えさせたい。

第３次(まとめ)では，完成したブックリーフレットを交流する。事実のまとめ方，どんな謎を調べているか，子孫に思いをめぐらす文化の具体について書かれていることを見せ合う。そして，感想を述べ合っ

たり，書き方のよさを伝え合ったりすることで，成果を賞賛し合いたい。

５．単元（題材）の指導計画

次	時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価		
			関	読	評価規準
1次	1	○初発の感想を交流し，学習課題を知る。 ・イースター島について知っていることの交流。 ・モアイ像の写真を見て，何のためにつくられたか考える。 ・教材文を通読し，初発の感想を書く。 ・感想を交流し，学習課題を立てる。	○		☆教材文に興味関心をもって読み，積極的に感想を交流している。
	2	○「謎解きブックリーフレット」のつくりかたを理解する。 ・教材文の中で分からない言葉や，疑問に思ったことを話し合う。 ・「謎解きブックリーフレット」のお手本を見て，つくりかたを知る。	○	○	☆「謎解きブックリーフレット」に書く内容，レイアウトの方法などを理解している。
2次	3	○教材文を３つに分け，見出しを付ける。 ・教材文を序論・本論・結論に分ける。 ・各論を表すキーワードを探す。 ・キーワードを入れて，各論に見出しを付ける。		○	☆教材文がどの文で分かれるのか理解し，内容に合わせて見出しを書いている。
	4	○序論について書かれていることをまとめる。 ・序論部を音読する。 ・イースター島の場所や特徴をまとめる。 ・序論について，調べてみたい謎を考える。 ・どんな謎が考えられるか全体で共有する。 ・解決しない謎について，解説書を参考に調べて謎解きブックリーフレットにまとめる。		○	☆イースター島の特徴を簡潔にまとめ，調べてみたい謎を見付けて書いている。
	5	○本論について書かれていることをまとめる。 ・本論部を音読する。 ・森林が無くなった原因をまとめる。 ・本論について，調べてみたい謎を考える。 ・どんな謎が考えられるか全体で共有する。 ・解決しない謎について，解説書を参考に調べて謎解きブックにまとめる。		○	☆森林が無くなった原因を簡潔にまとめ，調べてみたい謎を見付けて書いている。

	6	○結論について書かれていることをまとめる。 ・結論部を音読する。 ・森林が無くなった後の様子をまとめる。 ・結論について，調べてみたい謎を考える。 ・どんな謎が考えられるか全体で共有する。 ・解決しない謎について，解説書を参考に調べて謎解きブックにまとめる。		○	☆森林が無くなった後の島の様子を簡潔にまとめ，調べてみたい謎を見付けて書いている。
	7 本 時	○結論について筆者の主張をまとめ，自分の考えを書く。 ・結論部を音読する。 ・意見を表す文章に着目し，筆者の主張を要旨にまとめる。 ・筆者の主張について自分の考えをまとめる。		○	☆筆者の主張を読み取り要旨にまとめ，それに対する自分の考えを書いている。
3 次	8	○謎解きブックを交流し，書き方のよさに気付く ・自分の謎解きブックリーフレットを見返す。 ・よく書けたところに付箋を貼る。 ・謎解きブックをグループで見せ合う。 ・友達のよく書けているところに付箋を貼る。 ・学習を通して分かったことや思ったことを書く。	○	○	☆謎解きブックを交流し，自分や相手の書き方のよさを見付けて付箋に書いている。

６．本時の計画　（本時７時間目）

（１）本時のねらい

筆者の主張について，考えたことを交流することを通して，主張に対する自分の考えをまとめることができる。

（２）本時の構想

導入では，前時までにまとめた筆者の主張を読み，「わたしたちはイースター島の森林から何を学ぶのか」と問う。「森林破壊はよくない」「イースター島のように文化を滅亡させてはいけない」など，森林がなくなった経緯を振り返りながら，子どもたちは思い思いの考えを述べるだろう。

その後「**モアイ像はつくられなかった方がよかったのでしょうか。もしそうだとしたら，イースター島の人々はどうすればよかったのでしょうか**」と問う。筆者の主張は「子孫に思いをめぐらす文化」を早急につくらなければいけないと述べている。これは，言い換えれば「モアイ像は森林破壊の一原因であるため，つくらなかった方がよかった」とも言える。子どもたちはこの問いに，賛否どちらの立場であるか決めた上で，イースター島の人々はどのようにすべきだったのか自分の考えをもつことができるだろう。

まとめでは，倒されたモアイ像の写真を見た感想を書かせる。子どもたちは「イースター島が教えてくれたもの」を自分なりの言葉でまとめ，書くことができるだろう。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価・○留意点
導入 １．課題を知る。 （10 分）	T1　５分間音読をしましょう。 T2　振り返ります。筆者の主張とはどんなものでしたか。 【例】森林破壊をし，生物の住むバランスを崩せば，人々は生活が苦しくなり，相手の気持ちを考えられなくなる。そして食糧不足になったり争いを起こしたりするようになる。人類存続のためには，未来の子どもたちが苦労することなく生活できることを考えなければならない。 T3　筆者の主張を受け，イースター島から森林がなくなった事実は読者に何を教えてくれるのでしょうか。 わたしたちはイースター島の森林から何を学ぶのか C1　森林を大切にしなくてはならない。 C2　環境破壊をやめよう	○前時までにも５分間でできるだけ全文が読めるように練習をしておく。 ○前時までに要旨をまとめておく。
展開 ２．主張に対する自分の考えを書く。 （10 分）	T4　森林を破壊した原因の一つにモアイ像があります。モアイ像をつくらなければ森林は救われたのでしょうか。 C3　救われたと思う。 C4　モアイ像だけが原因ではない。だから救われ	○「森林破壊」はモアイ像が原因の一つであることを確認する。

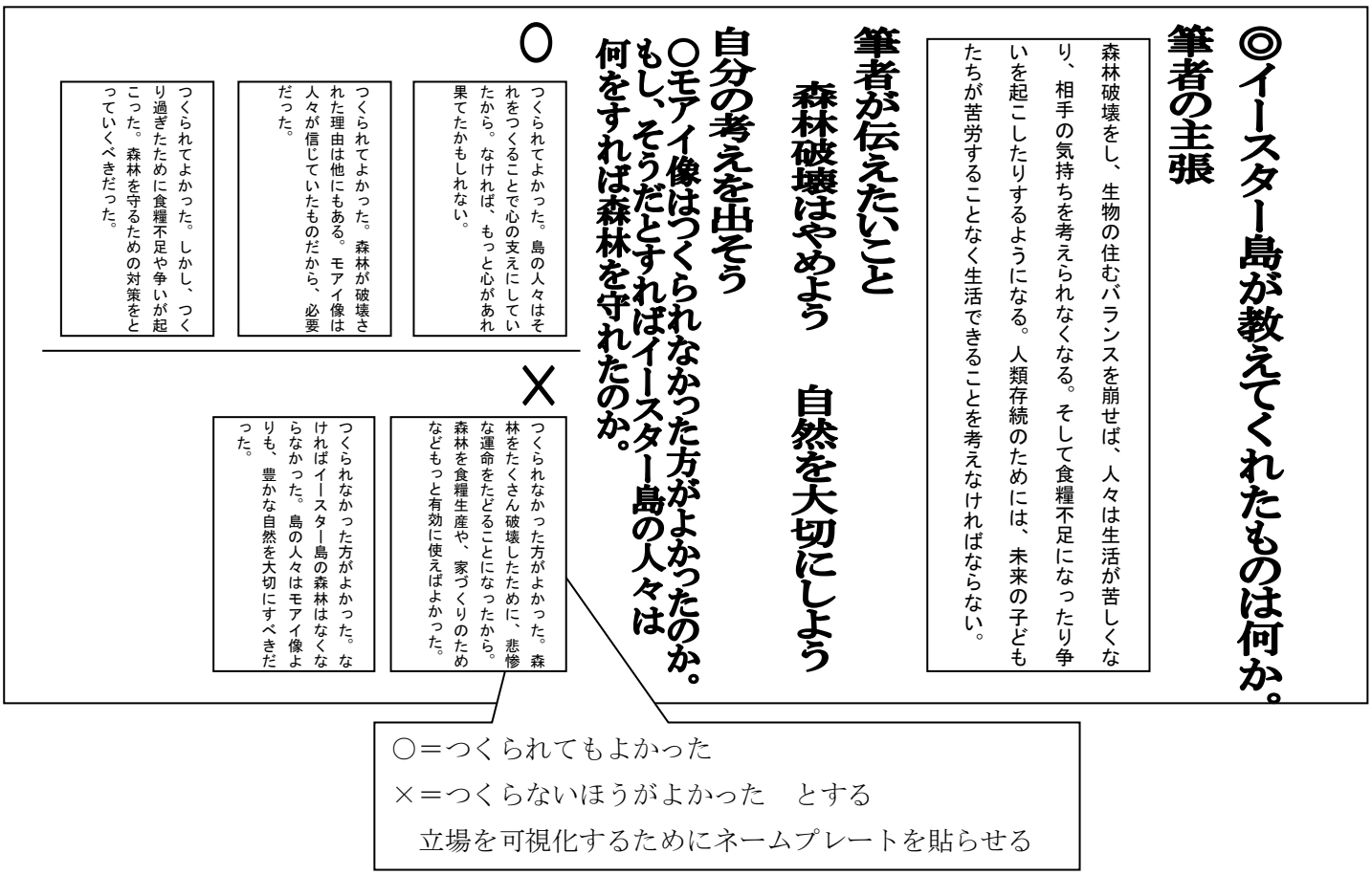
	なかったと思う。 **T5　(中心発問)モアイ像はつくられなかった方がよかったのでしょうか。もしそうだとしたら、イースター島の人々は何をすれば森林を守れたのか。**	
３．自分の考えをグループで交流する。 (20 分)	C5　つくられなかった方がよかった。森林をたくさん破壊したために,悲惨な運命をたどることになったから。森林を食糧生産や，家づくりのためなどもっと有効に使えばよかった。 C6　つくられなかった方がよかった。なければイースター島の森林はなくならなかった。島の人々はモアイ像よりも,豊かな自然を大切にすべきだった。 C7　つくられてよかった。島の人々はそれをつくることで心の支えにしていたから。なければ，もっと心があれ果てたかもしれない。 C8　つくられてよかった。森林が破壊された理由は他にもある。モアイ像は人々が信じていたものだから，必要だった。 C9　つくられてよかった。しかし，つくり過ぎたために食糧不足や争いが起こった。森林を守るための対策をとっていくべきだった。 T6　ノートに書いたものをまとめて,ブックリーフレットの「自分の考え」に書きましょう。	○まずはノートに考えをメモさせる。 ○自力解決の後グループで交流させる。 ○交流の前に，自分が「つくられた方がよかった」「つくられなかった方がよかった」のどちらの立場か明確にさせる。その後，立場の同じもの同士で交流(7 分)させ，立場の違うもの同士で交流(7 分)させ，意見の幅を広める。 ○交流後新しい気付きや友だちからもらった考えを赤ペンで付け足しさせる。 ■筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 （ノートとブックリーフレット）
まとめ ４．本時の振り返りを書く。 (5 分)	T7　最後の挿絵ではモアイ像が倒されています。あなたはこの写真を見てどんなことを感じますか。感想をまとめましょう。 C10　せっかくつくったものでも，心があれ果ててしまうと悲惨なことになると思った。 C11　モアイ像がかわいそうだ。森林破壊や生態系の破壊などせず,人間は自然を大切にしなければならない。 C12　モアイ像は，森林さえ残っていれば倒されなかったのではないか。祖先も子孫も大切にするために，森林を守る必要がある。	○挿絵の写真を見せ，気づいた点を発言させる。 ○書き出しにくい児童には，モアイ像はなぜ立てられたのか思い出させ，倒されていることで何が分かるのかを書かせる。 ■授業をふりかえり，感想をまとめている。(ブックリーフレット)

(４)本時の評価　　筆者の主張に対して，賛否を明らかにしてその理由をまとめ，感想を書いている。

A 評価　賛否を明らかにしている。理由を本文中の内容に沿ってまとめている。まとめの感想を書いている。

B 評価　賛否を明らかにしている。理由を自分なりの言葉で書いている。まとめの感想を書いている。

板書計画



○＝つくられてもよかった
×＝つくらないほうがよかった　とする
　立場を可視化するためにネームプレートを貼らせる

７．参考文献

（１）写真で分かる謎への旅　イースター島　　柳谷 杞一郎　著（雷鳥社）
（２）イースター島の謎　　カテリーヌ・オルリアック/ミッシェル・オルリアック　著
　　猪熊兼勝　監修（創元社）
（３）イースター島の謎　巨人像モアイ　　吉川豊　著（理論社）
（４）ギリシャ哲学の対話力　斉藤孝　著（集英社）
（５）菊池省三の「話し合い」指導術　菊池省三　著　関原美和子　編集（小学館）
（６）子ども熟議 now!　　菊池省三　著（教育同人社）
（７）「単元を貫く言語活動」授業づくり徹底解説＆実践事例２４　　水戸部修治　編集（明治図書）
（８）教材に「しかけ」をつくる国語授業１０の方法　　桂聖　著（東洋館出版社）
（９）白石範考の国語授業の教科書　　白石範考　著（東洋館出版社）